

「小雨でも土砂災害」

56学会が緊急提言

西日本豪雨災害について、気象や土木、建築など防災関係の56学会でつくる「防災学術連携体」は22日、東京都内で記者会見し、一般向けの緊急提言を発表した。西日本では土砂災害が発生しなかった地域でも大量の水が土壌に残り、「通常の降雨でも土砂崩れが発生する危険性が極めて高い」と警戒を呼びかけている。

提言は、被災地では多量の土砂が山地に残り、危険な状態にあると指摘。土砂災害の復旧活動に取り組む住民やボランティアに対して、小雨でも活動を中止して早めの避難を求めた。また、温暖化の進行など

で豪雨の発生頻度が高まり、規模も大きくなる傾向があり、全国で洪水や土石流などの危険性が高まっていると分析。市民一人ひとりに「災害の危険性を知る義務と、自分と家族を守る責任がある」として、自分たちの身は自分たちで守る「自助」の重要性を強調した。